



運がよくなる法則 (科学的に)



中小企業診断士
米倉 博彦

あなたの周りに「なんだか運がいい人」はいないだろうか？運のいい人というのはたしかに存在する。それは、運命でも星の位置でも神様の思し召しでもない。今日は、科学的な見地からの「運がよくなる法則」について書く。

リチャード・ワイズマンという科学者兼マジシャンが、自分のことを運がいいと思っている人と運が悪いと思っている人を集めてアンケートやヒアリングを行い、それぞれの特徴を統計的に分析した。その結果、運のいい人の特徴が明らかになった。

■知能が高い？はたまた予知能力がある？

運のいい人は、知能が高く、将来を予測できるのだろうか？はたまた、将来を予知する不思議な能力があるのだろうか？

ワイズマンは、運のいい人と悪い人に知能テストを受けさせてその結果を比較した。双方に知能レベルの違いは見つけられなかった。つまり、運の良い人は知能が高い、というわけではない。

次に、宝くじの番号を予想させた。結果は、運の良し悪しにかかわらず当選確率は同じ。運のいい人には予知能力がある、というわけでもないようだ。

この宝くじの実験でわかったことがある。それは、「宝くじに当たると信じている人の割合は、運がいい(と思っている)人は、悪い(と思っている)人の2倍以上になる」ということだ。

もちろん、当たると信じていたからといって当選しやすくなるわけではない、宝くじは純粋に確率論の問題だからだ。しかし、人生は違う。良い期待が良い結果に繋がることもままある。

■心理学のビッグファイブ (特性5因子論)

心理学の一説によれば、人間の性格は5つの特性を組み合わせることで表現できるそうだ。これは、ビッグファイブ (特性5因子) と呼ばれている。

- ①協調性 (共感や優しさ、利他の心)
- ②誠実さ (自己のコントロール、きまじめさ、責任感)
- ③外向性 (社交性、活動の多さ、積極性)
- ④神経症的傾向 (刺激やストレスに対する感受性、不安・緊張の強さ)
- ⑤経験への開放性 (知的好奇心の強さ、創造力、適応力)

ワイズマンによれば、これら5つの因子のうち、①協調性と②誠実さは、運のよさとは関係がない。協調性があっても、誠実であっても運がよくなるようない。

残りの3項目、③外向性、④神経症的傾向、⑤経験への開放性が、運がよくなるのか、それとも悪くなるかを決定する。

■運のいい人の法則

それでは、ワイズマンの調査による「運がよくなる法則」を順に見ていこう。

①チャンスを最大限に広げる

- ・人付き合いを大事にする
- 社内外を問わず、たくさんの人に会おう。友人や知人が多ければ、それだけチャンスに巡り会う確率も増える。言い方はよくないが「数打ち当たる」という奴だ。

社会学者であるマーク・グラノヴェッターは、「弱いつながり」という概念を提唱している。これは、有益な情報は家族や親友といった「強いつながり」よりも、単なる知り合いのような「弱いつながり」からもたらされるという説だ。



・肩の力を抜いて生きる。

緊張していると、チャンスを見逃してしまう。肩の力を抜いて生きるようにしよう。肩の力を抜いて周囲を見渡していれば、道に落ちている千円札に気づけるだろう。電車の中で下を向いて眠るのではなく、中吊り広告を見ていれば、いまの自分の問題を解決してくれる記事や広告に出会うかもしれない。

・新しい経験をする

毎日同じ道を通り同じ場所に行き、同じ人に会い、同じ事をやっているのは、偶然の機会や自分の新しい可能性を発見できない。せめて週末だけでも、普段とは違うことをやってみよう。

②虫の知らせを聞き逃さない

直観を大切にすること。直観とは単なるひらめきではなく、自分がこれまで生きてきた中の知識と経験が言葉にはできない何かを伝えているものだ。

もちろん、直観だけに頼って選択するのは良くない。考えて考えて、合理的な決断だと思っても、直観が「なんか違和感がある」と警告を出すのなら、辞めた方がいい。運の良い人はそうする。

ちなみに、直観を鍛えるには、瞑想の習慣をつけることが有益だそう。

運の良い人の中で瞑想の習慣を持っている人は、悪い人の約二倍いる。

③幸運を期待する

運の良い人は、これからもいい事が続くと思っている。逆に、運の悪い人は今後も悪いことが続くと思っている。

自分は運がいいと思っている人は、ものごとがうまく行くと信じているので、いろいろチャレンジするし、根気強い。成功の確率は当たり前になら高くなるだろう。

④不運を幸運に変える

いくら運がいいと思っている人でも、不運な出来事に遭遇することはある。

そんなとき、運の良い人は「悪いことがおき

たが、この程度で済んでよかった。こんな不運は今回だけで」と思う。運の悪い人は「人生こんなことばかりだ、なんでこんな目に遭うんだ、今後もこんな不運が続くに違いない」と思う。運の良い人は「物事の明るい面」を常に探している。交通事故で入院したとしても「死ななくてよかった、しばらく会社を休めるし、その間になにか新しい勉強を始めよう」などと考える。

自分が選んだ道に不運が立ちまわることには、運の良し悪しにかかわらずあり得る。そのとき、運が良い人は別の道を探す。運の悪い人は諦めてしまう。

どちらが成功するかは、言うまでもないだろう。

■まとめ

要約すると、運が良い人というのは、「外交的で、おおらかで、好奇心旺盛。自分を信じていて、未来は明るい」と期待しながら生活し、悪いことがあってもそのなかから良い面を見つける」ような人だと言える。

こうして書くと当たり前のようにも思える。「そんなのわかってたよ」と思う読者もいるだろうが、科学的な調査でそのことが裏付けられた意義は大きい。

または、「私は内向的だし、神経質。好奇心にも乏しいので、運が悪い人生を生きるのか・・・」と落胆する読者もいるかもしれない。

性格を変えるのは難しい、しかし、行動を変えることはできるはずだ。内向的な人も、ネット等の顔の見えない環境であれば明るく振る舞えるかもしれない、神経質な性格は、前述のように瞑想等の習慣を取り入れることである程度改善できる。好奇心がないのであれば、サイコロで行動を決めて強制的にやってみるのもお勧めだ。やるまではおっくうだが、やってみれば面白いことは案外多い。

まずは、一番取り組みやすそうな瞑想あたりからはじめてみましょうか。

参考文献：「運の良い人の法則」リチャード・ワイズマン著
角川文庫